

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	早稲田大学
整理番号	A13
構 想 名	W a s e d a O c e a n 構想 ～開放性、多様性、流動性を持つ教育研究ネットワークの構築～

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） A	十分な取組状況で事業目的が達成され、今後も持続的な発展が期待できる。
（コメント） 事業期間全体において、貴学の創立 150 周年（2032 年）へ向けた中長期計画「Waseda Vision150」が SGU の構想そのものであったことより、その延長上に、世界に向けて大学を開放（開放性、多様性）し、ダイナミックな頭脳の国際的流動の中で（流動性）、教育研究の質と量の飛躍的向上を目指すという「Waseda Ocean 構想」を掲げることで、世界を牽引し、世界に貢献する大学であり続けるという目的に対し、一体性のある計画運用となっている。 「Waseda Ocean 構想」では3つの大きな目標が設定されており、その構想実現のために適切な体制構築を行ったことや教育システムの改革が図られたことが優れている。具体的には、総長を本部長とする強力なリーダーシップを持った「Waseda Vision 150 推進本部」の下で、各種取組みが進められ、いずれも着実な成果があったと言える。中でも「国際的インターフェースを持つ教育システムの構築」については、国際競争力のある7モデル拠点に先行的かつ戦略的な集中投資を行うことで教育の国際化改革を牽引させ、全学に波及させたことにより、事業最終年度の実績において、QS 分野別ランキングや QS 総合ランキングにおける順位等を伸ばし、国際性溢れるキャンパスを実現できた点は高く評価される。 大学運営ガバナンスについても抜本的改革を行い、意思決定機関等への外国人・女性、企業経営経験者の積極登用や、大学運営財源の多角化を実現し、SGU 事業の補助期間終了後も、大学自己資金による自走化を可能としたことも高く評価される。 一方で、令和2年度中間評価において指摘されている、日本人学生の送り出し（日本人学生に占める海外留学経験者数や大学間協定に基づく派遣日本人学生数）に関する指標に関して、コロナ禍の影響があるとは言え、具体的な改善が見られず、より対策が必要であると言える。海外留学に向けた各種奨学金の更なる拡充や、企業連携等を視野に、日本人の送り出しにおける各種数値の改善に向け、展開されることを期待する。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	